江戸幕府の政治が長く続いたわけ

江戸幕府の政治が260年あまり続いたのは、なぜだろう。

始まり：徳川家康が関ヶ原の戦いに勝ち、江戸に幕府を開く

江戸幕府の政治が長く続く 260年あまり

武士による政治が安定し、争いの少ない世の中が続く

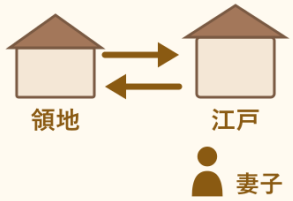
1 大名を分けて全国に置く



親藩・譜代・外様に分けて配置する
外様は遠い土地に多い
決まり（武家諸法度）を守らせる

大名どうしが手を組んで、幕府に逆らいにくくなる

2 参勤交代で江戸に通わせる



大名は領地と江戸を行き来する
妻子は江戸に住む
行列や江戸のくらしに多くの費用がかかる

将軍に従う形がくり返され、大名は力をたくわえにくい

3 外国との関わりを限る（鎖国）



キリスト教を禁じる
貿易を幕府が管理する
日本人が海外へ行くことを禁じる

外国とのつながりや貿易を、幕府がにぎる

4 武士を中心とした身分を定める



武士が政治を行う
百姓は年貢を納める
町人は商売や物づくりをして町に住む

武士を中心とした世の中のしくみが定着する

時代の後半にはゆらぎも出てくる

時代の後半
しくみのゆらぎ

発展
ききんや百姓の一揆がふえる

＋

黒船が来航し、国を開くよう求められる

→ **幕府のしくみが変わる前ぶれ（明治維新の学習へ）**

※ 長く続いたわけのうち主なものを選んだ模式。配置（円）は江戸からの遠さの模式で、地図ではない。